

避難促進のための防災Go!プロトタイプの開発

社会環境学部 社会環境学科 教授 森山 聡之
社会環境学部 社会環境学科 准教授 上杉 昌也

分野 防災工学

キーワード 防災、流域、GIS、ゲーミング

研究概要

1. 研究背景

近年日本各地で豪雨や、それに伴う洪水に対する逃げ遅れが発生している。これは、根本的には地域住民が常日頃から流域に意識を向けていないことが問題である。そこで本研究では、スマホ向け防災ゲーム「防災Go®」を開発し、住民が流域を平常時に巡回するように誘導することにより、住民の水意識の向上、最終的には避難モチベーションの向上を目指す。

2. 防災Go®

平常時から地域の河川に親しんでもらうために、地域の空間情報を提供し、現地に行くとポイント等をゲットするゲーム形式のスマホアプリのプロトタイプを開発する(図1)。ベースマップとして、流域の地域情報をGIS化した「緑川水辺空間マップ(熊本河川国道事務所提供)」(図2)を用いて、オープンデータやシビックテックの方々とも連携しながら開発を行う。

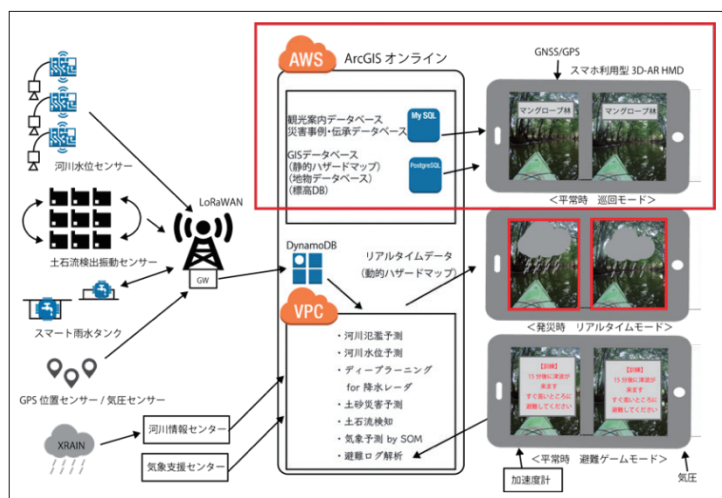


図1: アプリの概要



図2: モバイル端末での表示

〔研究助成〕国土交通省河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川)
「避難促進のための防災Go!プロトタイプの開発」

利点特徴

日頃から使うアプリとして、河川に親しむことで住民の水意識への回帰、防災意識の向上などが期待される。避難のモチベーション向上のためにも、地域を知ることによる人との繋がりが增大することが、地域活性化にも繋がると考えられる。

応用分野

本アプリは、ゲームのみならず河川管理にも活用可能であり、住民と河川管理者の有機的な連携、例えば住民が堤防の状況がおかしいなどの(写真や動画も含む)状況をスムーズに共有可能な機能も同時に実装する。

特許情報

商標登録(2020年登録)第6241393号「防災Go」